



第578号
2022年4月1日

発行:自治労連千葉県本部
千葉市中央区長洲1-10-8 自治体福祉センター内
TEL 043-227-9393 FAX 043-227-6060
メールとホームページURLは題字の中↑
責任者・竹内 敏昭 編集長・實川 理

南房総市

身の丈にあつた事業を地道に継続

地球に優しい 木質バイオマス活用と基幹産業支援



道の駅部の里に設置した薪ボイラー施設について説明する岩波さん

南房総市は、2021年8月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、自治体として脱炭素社会を目指しています。宣言では、地元産木材資源のさらなる活用が打ち出されています。
この事業を担当している同市農林水産部の岩波さんにお話を伺いました。

活用されていない森林資源
燃料費の高騰が施設園芸農家を直撃

南房総市は、市域の53%が森林です。しかし近年では、森林の年間成長量(増加体積)の1%未満しか活用されていません。
人の手が入らなくなった森林は荒れ、イノシシが増えたり、表土が流出したりします。森林の管理と利用は市の重要課題となっていました。



岩波さん
南房総市農林水産部
農林水産課地域資源再生室

市の基幹産業である農業のなかで、最も生産額が大きいのはハウス栽培などの施設園芸です。温度管理が必要で、経営費の2から4割が燃料費になるため、化石燃料の高騰は農業経営を圧迫しています。

薪の燃焼時にCO2は出ますが、森林が更新される過程でCO2は再び樹木に吸収されます。化石燃料と比べ96世帯分(年間排出量)のCO2を削減したことになります。

2015年からの暖冬や原油価格の下落で施設園芸用大型薪ストーブの導入はなかなか進みませんでした。2019年の台風災害では、園芸施設そのものが大きな被害を受けました。台風後は倒木が多く、薪を自己調達するまで、薪の製造・品質管理と供給体制の整備、薪ストーブの使用手法や効果検証など、試行錯誤の連続でした。

2011年にとりくみが始まってから現在に至るまで、薪の製造・品質管理と供給体制の整備、薪ストーブの使用手法や効果検証など、試行錯誤の連続でした。

「振り返れば、つらいと思っても諦めず、やらなければいけないことを必死にやることが良かったのだと思います」「その時は意義を見出せなくても、くらいについてやってみると見えてくる景色があります。後から考えれば、無駄なことは一つもなかったような気がします」

達する農家が多くなったため市の薪供給システムの利用は減るといふ影響も出ています。
単独補助事業で薪活用をプースト
昨年夏、世界的な異常気象の頻発により気候危機への関心が高まる中、市は「ゼロカーボンシティ」を目指し新たな取り組みを始めました。

薪の消費拡大のため市独自の補助制度を充実させ、①施設園芸用薪ストーブ導入補助の引き上げ、②個人住宅用薪ストーブ導入補助の開始、③薪購入費補助の開始に乗り出しました。

住宅用薪ストーブは希望が殺到しており、今後裾野の広い事業へと展開していく兆しがあります。

他にもCO2の削減や防災機能強化としての公共施設へのボイラー導入、地域の魅力を発信していくため観光事業との連携も計画しています。

担当職員として くらいについてやってみると 見えてくる景色がある

担当者として くらいについてやってみると 見えてくる景色がある



山々が連なる南房総市の嶺岡地区

南房総市では、主に木材を熱源として利用する形で事業を展開し成果を上げています。これまでに薪ストーブ「ゴロン太」は、市内で累計25台が導入され、燃料として重油14万リットルに相当する薪が

南房総市の薪活用の仕組み概略図



作成:自治労連千葉県本部

無駄なことは一つもなかった